

第 6 回阪南みらい会議 会議要旨

○日 時：平成 22 年 4 月 8 日（木）

19:00～21:00

○場 所：市役所 3 階 全員協議会室

○出席者

委 員	13 名（欠席者 8 名）
アドバイザー	近畿大学 久教授
事 務 局	総務部長、総務部理事、みらい戦略室 5 名、 パシフィックコンサルタンツ（株）1 名

- 事務局から、平成 21 年 4 月 1 日付けの組織替え・人事異動の報告、みらい戦略室の職員紹介があった。

榑谷総務部長、高山総務部理事、中出みらい戦略室長、

坂本室長代理、近藤主幹、石川総括主査、東野主事

- 委員から、DVD2 枚が配付され、ご意見を聞かせていただければとの依頼があった。
- 欠席された委員からの資料の配布があり、司会者から一読されるよう依頼があった。

（１）会議の進め方について

（委員の意見）

- ・前回の会議で、分科会の方向に行こうということになったので、テーマを絞って、分科会に分けて討論し、重要なポイントを全体場で発表して意見交換するというようなやり方かどうか。
- ・アドバイザーの話から、財政のことについてはテーマとせずに、苦しい財政の中で具体的に市民の立場でどうやってより良いまちにしていけるかということが重要だと思う。高齢化・教育・幼児施策など、市の抱える大きな項目から 2 つ 3 つについて討論してはどうか。
- ・財政を置いておく理由が分からないが。
- ・財政のことについては人口や納税者で納税額は決まってくる。自由になるお金が少ない中で、市民が気持ちとして満足できる生活ができるようになれば良いと思う。
- ・アドバイザーの話から、財政議論をすると、前向きな論議になりにくく、みらい会議の本来の趣旨が前に進まないのではないかと。財政を抜本的に良くするようなドラステックなアイデアがあれば良いが、行政と議会と市民が一緒になってこのまちをどうしていこうかと考えるべきである。
- ・財政についても提言がまとまれば、阪南みらい会議の委員から総合計画審議会の委員

になった委員が、審議会の中でみらい会議の意見を反映させていくというのが手順だ
と思う。

- ・ 阪南市が今後 10 年、どこに向かっていくか、皆さんの意思統一がされていない中で、
分科会に入るのは順序が違うのではないかと、方向が決まらないうと、分科会で個々の問
題を検討してもまとまらない気がする。
- ・ 全体会議は時間が取られてしまうので、問題の集約をしていくためには、分科会で多
くの意見を出し、それを全体会議でまとめていく手法が一番いいと思う。
- ・ 最初からテーマを絞って分科会で議論するのは時期尚早で、テーマを絞らずに、まだ
想いを出し合って討論したら良いと思う。テーマは次の段階でも遅くないと思う。
- ・ 私たちがやらないといけないのは、コミュニティの形成等ではないか。

(まとめ)

- ・ テーマを絞らず分科会形式で、司会者中心で 2 班に分けて話し合う。

～久教授アドバイス～

和気あいあいとやっている中で、色々と共有したり、調整したり、という作業をして
いけば、何か生まれてくると思う。

(2) グループに分かれて意見交換・内容発表

○グループ (6 名)

- ・ 最初は、みらい会議でまとめるのはどんなイメージのものかなということから議論が
始まった。
- ・ 「人づくり、場づくりをすること」が必要。
- ・ 「市、議会、市民の三者が一体となって話をする場づくり」
それによって、地域ごとの特色を活かした活動・まちづくりを活発にすることもで
きる。
- ・ 「互いに感謝しながら、役割を遂行すること」
三者が市を良くしたいと思うように、互いに感謝の気持ちを伝え合い、できること
をやっていく。
- ・ 「市、議会、市民の変革」
これまでの意識を変えていくことが必要。
- ・ 「活動グループのネットワーク化が重要」
団体同士のつながりや、活動する人・活動されていない分野・行き渡るべき情報が
漏れないようにする。
- ・ 「若い人が住み良いまちづくり」
若い人が来てくれる・出て行かないようなまちにしていけることが必要。

○グループ (7 名)

- ・ 「情報共有化とその方法」
情報を全部の地域や人が共有できるように情報ネットワークを構築すべき。その方

法として自治会が挙げられるが、自治会は地域によって格差が激しく、横の連絡を担う地域のコーディネーターの役割を担う人づくりが必要ではないか。

- ・「市の観光産業 里海公園を中心に」

観光産業を興す仕掛けとして里海公園を目玉にしていく方法について議論された。山中溪もあるが、里海公園を捉まえる以外に方法がないと考えられるが、府が管理しており、阪南市が独自に楽しめる企画ができるように、市民と行政とが本腰を入れて阪南市に移管させ、NPOなりを立ち上げ、観光拠点にしていきたい。

～久教授アドバイス～

- ・この会議に求められているものは、基本構想、それも一番大切な将来像の提言であるが、将来像とは一体何なのかを、確認したい。

(事例) 茨木市の都市計画マスタープランの将来像キャッチフレーズ

“ 「人持ち」でつながる「人力タウン」茨木 ”

沢山の人がつながっていったまちをつくろうという思いが「人持ち」に反映され、人のぬくもりが感じられ、人の手でつくるといった色んな意味を「人力」という言葉に込められている。

(事例) 泉大津市の“ 「地域福祉計画素案作り」学習会最終報告書 ” の

将来像キャッチフレーズ

「めざせ！8万人の大家族」

地域福祉というのは地域みんなで支えながら福祉を展開していくもので、8万人が家族になったつもりで、みんなで支え合いながらやっていくという意味が込められている。

2つともに市民の皆さんとの提案からできた言葉であり、気に入っている。きれいな言葉ではなくても、市民の思いが凝縮されている。非常に簡単な言葉であるが、すごく分かりやすい。そのようなキャッチフレーズが提案できればいいと思う。

- ・グループ の「互いに感謝しながら役割を遂行する」をもう少しやわらかくして「お互い様で支え合えるまち」をめざそう、というようにもできるのではないか。
- ・最初は個別の話、具体的な話から始まってよかったが、議論の末、凝縮していった、分かりやすくて、いいキャッチフレーズの言葉がいくつか見つかっていけば、それが基本構想なり、将来像になっていくのではないか。
- ・グループ のブランディングについては、大学のブランディング勉強会で、名古屋工業大学の加藤先生から、「4年間勉強したら、どういう人材になるんだということを一言で表せないと高校生、親御さんに伝わらない」「どういう教育をしたいのか、どういう人材を育てたいのかということを徹底的に全ての教職員で議論をして、誰が言っても同じ言葉が言えるまで議論する。その言葉が共有化できることがブランディングである」と言われた。「阪南市ってこんなまち」という同じ言葉がみんなの口から言えるだけ議論をしていった、方向性を共有していくプロセスこそが重要である。
- ・観光や地域の活性化については、分析をいくらしてもだめで、どういう面白さが出せるかというアイデアが大切である。

(事例) 大阪五低山巡り

帝塚山、御勝山、茶臼山、聖天山、天保山の大阪五低山を巡るもので、ちょっとした「ひねり」を普段の風景とか今ある資源に付加している。

(事例) スナメリ (小型のイルカ。東～東南アジア沿岸に生息。)

グループ で阪南市でスナメリに会えるのかという話があったが、スナメリに会える「らしい」が良い。会えなくても、会えるらしいというだけだから嘘はついていない。明日だったら会えるかもと探しに来る、そういう夢を抱かせるようなかたちで何か面白い発想ができたらと思う。

(委員の意見)

- ・キャッチフレーズをどのようにまとめるか、それから阪南市のためにどのようなアイデアがあるのか、これを集約できるように私たちが協力していかないといけないと思う。

(3) 次回の日程

- ・4月21日(水)

以 上